

岐阜県経済の現状



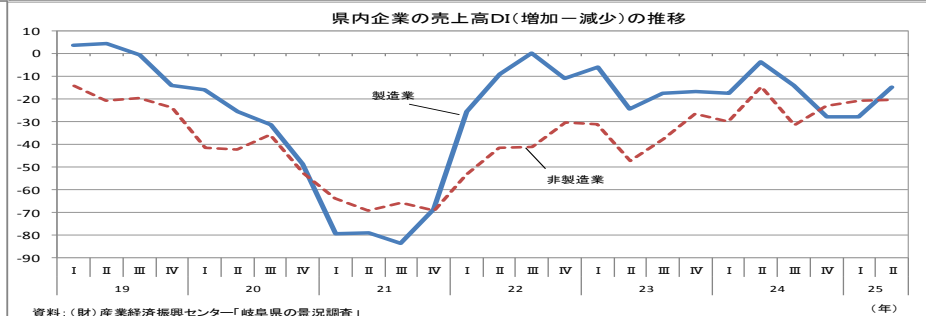
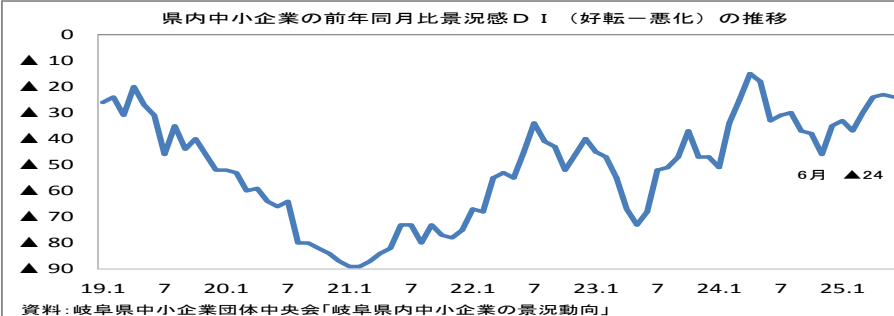
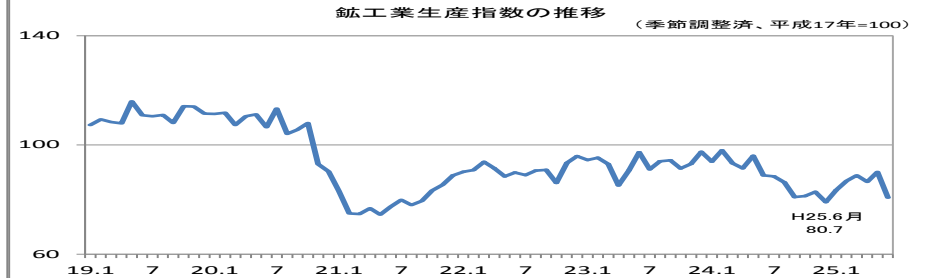
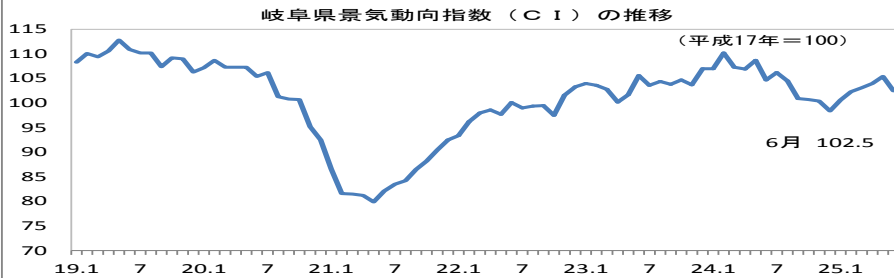
平成25年8月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは8月28日～30日を中心に実施し、9月6日に作成。

景気動向・製造業

○6月の景気動向指数(CI、一致指数)は102.5と前月から2.9ポイント下降。県内中小企業の6月の景況感は、1ポイントの悪化。

○6月の鉱工業生産指数は、10.4%減の80.7となった。製造業及び非製造業の売り上げは横ばい傾向。



現場の動き

- ◆非常に活況であり、操業以来最高売上げを達成した。これはアベノミクスの影響というわけではなく、平年より気温が高いこと及びお盆前の前倒し注文によるものと思われる。(食料品製造)
- ◆売上げ・受注量は、引き続き高いレベルで推移している。昨年同時期と比較しても高い状況にあり、今月は休日出勤で対応している。
- ◆トヨタ全体の生産量が伸びており、引き続き好調な状況が続いている。(以上、輸送用機械)
- ◆受注量は、対前年同月比、対前月比ともに50%増加。国内企業からの引き合いが増加。
- ◆受注は8割くらいまで戻ってきている。下期もほぼ100%の稼働率を維持できるとみている。(以上、生産用機械)
- ◆出荷量は、対前月で若干増加している状況である。(金属製品)
- ◆猛暑の影響を受け夏麺関連商品がコンビニ等で販売好調で受注増である反面、お盆休みの操業日数の減によりPET製品の生産販売が減少。
- ◆引き続き好調な状況で、9月も同程度の出荷量を見込んでいる。(以上、プラスチック)

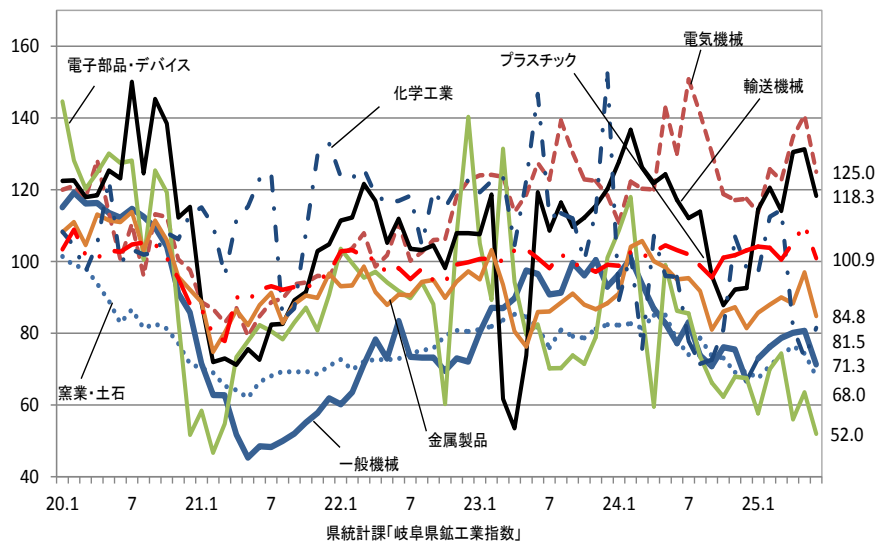
製造業-2(業種別)

○6月の生産指数は、化学工業で上昇したものの、
輸送機械、電気機械、プラスチックなど多くの産
業で低下した。

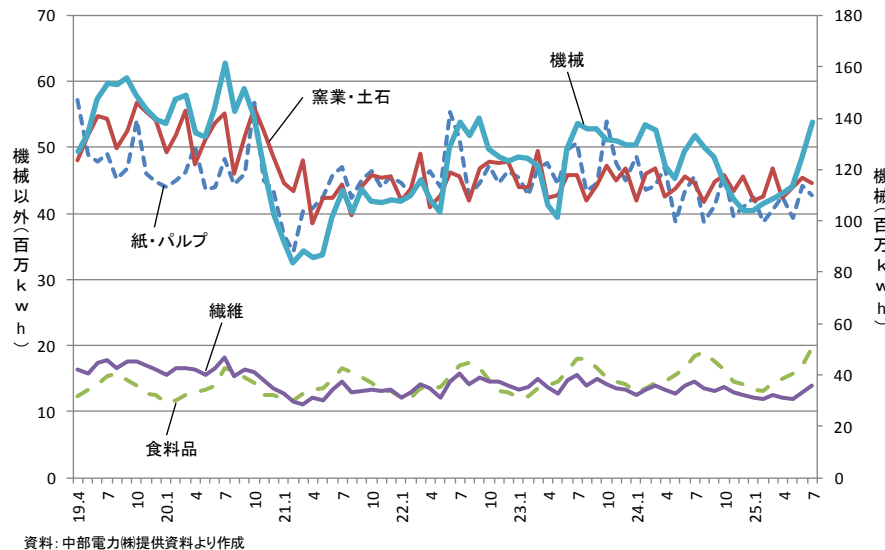
○7月の工場向け販売電力量は、機械で前年を
上回ったが、窯業・土石、紙・パルプで前年を下
回った。

主な産業の生産指数

(季節調整済、平成17年=100)



業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



現場の動き

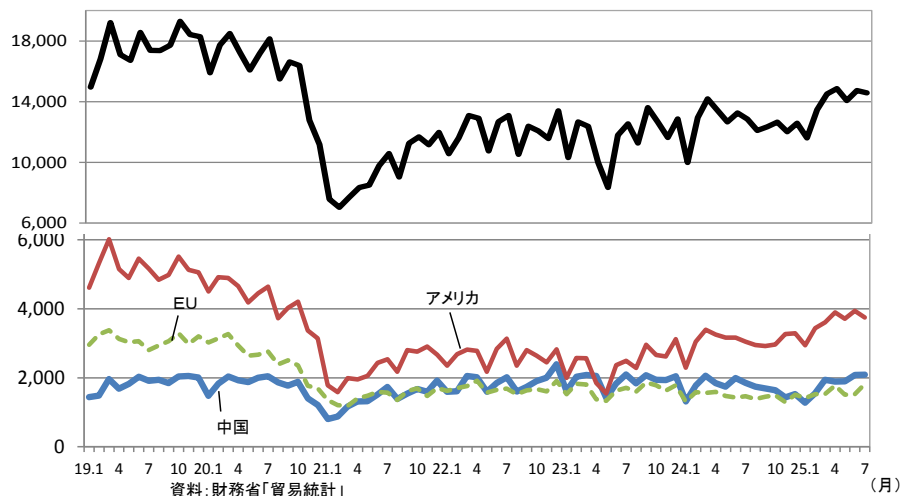
- ◆昨年終わり頃までは販売状況が回復する気配を見せたが、今年に入ると悪化し、6月以降はさらに悪化している状況。(アパレル)
- ◆タイル業界自体は今春より忙しくなっているが、製造メーカーの稼働率も6~7割といった程度で、景気が良くなってきたという実感はないようだ。
- ◆受注が落ち込み、売り上げは減少している。(以上、陶磁器)
- ◆国内は厳しいが、海外は好調。対前年比で105%ぐらい。円安基調もあり、発注量が増えている。(刃物)
- ◆昨年12月から7月までよくなかったが、8月については昨年比べてよかったと感じている。8月はバーベキューなどで使う紙皿や紙コップなどがよく出た。雨が少なかったことも幸いしたと感じている。
- ◆昨年と比較して悪くなっていると感じている。(以上、紙)
- ◆7月、8月は昨年同時期と比べて伸びている。(木工)

輸出

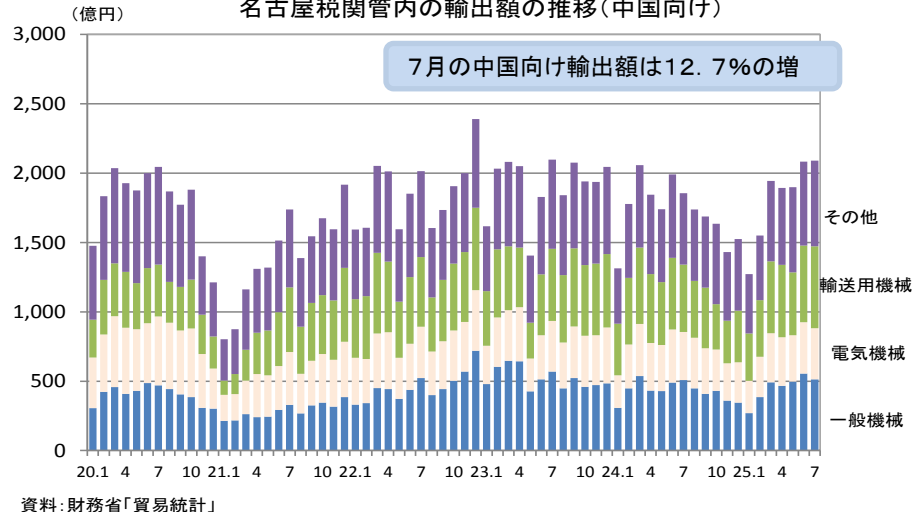
○7月の輸出額(名古屋税関管内)は、14,576億円と前年同月比13.5%増となった。

○中国向け輸出は一般機械、輸送用機械等の産業が増加したことで前年同月比12.7%増と4カ月連続の増加となった。アメリカ向け輸出も全ての産業が増加したことで前年同月比23.1%増となり、直近20カ月中19カ月で前年を上回っている。

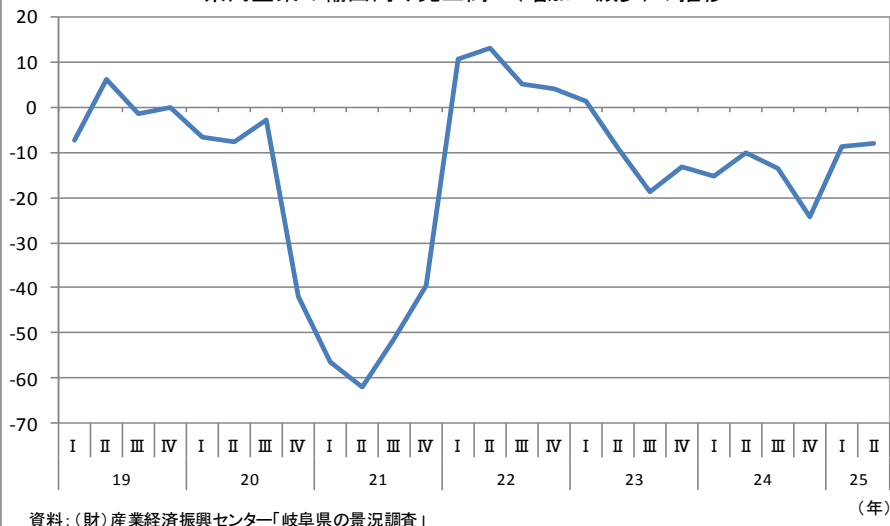
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



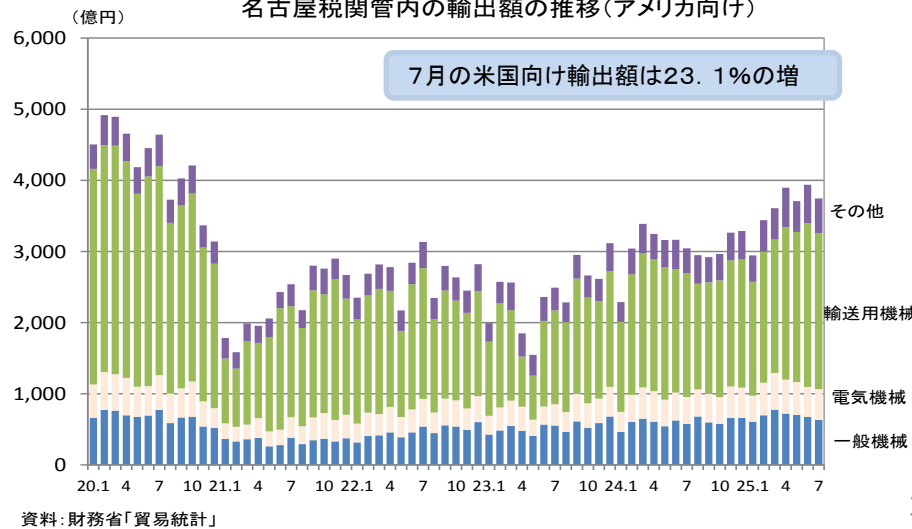
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)

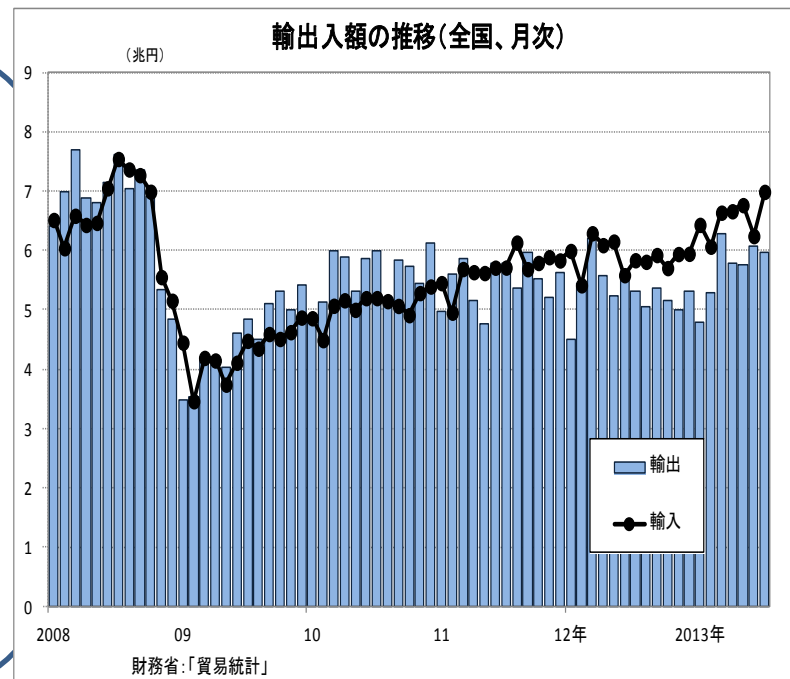


海外情勢の影響(直近の円安の動き等について)

- ◆円安基調の影響で、原材料、光熱費が高騰、販売価への転化が難しいことより、利益を圧迫している。重油、ガソリンの価格上昇により、製造コストが増加している。(食品製造)
- ◆アベノミクス効果による円安により、自動車の輸出が好調のため受注が増えており、燃料高騰を受注の増加でカバーしている状況である。
- ◆ガソリンが高止まりとなっており厳しい状況が続いている。4月以降、電気代の高騰が顕著であり、製造原価を上げている。(以上、輸送用機械)
- ◆円安により原材料費が上がっており、価格に転嫁できず収益圧迫している状況である。(金属製品)
- ◆為替相場が円安に転換した影響で原料価格が上昇しており、取引先に対して販売価格への転嫁をお願いしているが厳しい。燃料費増大による電力量・物流費等のコストアップについては、各種コストダウンによる自助努力で吸収する以外の対策は取れない状況。(プラスチック)
- ◆円安により原料価格が上がり、一方で上代を値上げすることはできないため、そのしわ寄せがメーカーにきている。(アパレル)
- ◆円安については影響はあるが販売額への転嫁はできないので、こちらの負担となっている。(紙)

アベノミクスの効果・影響について

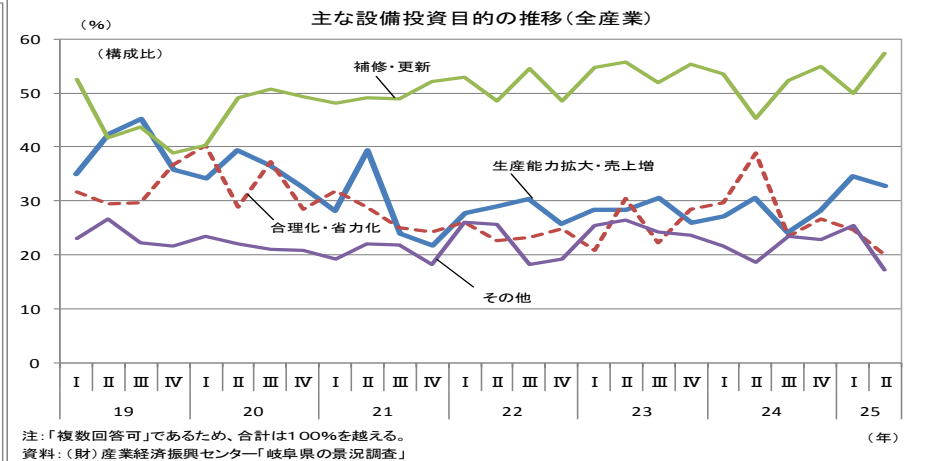
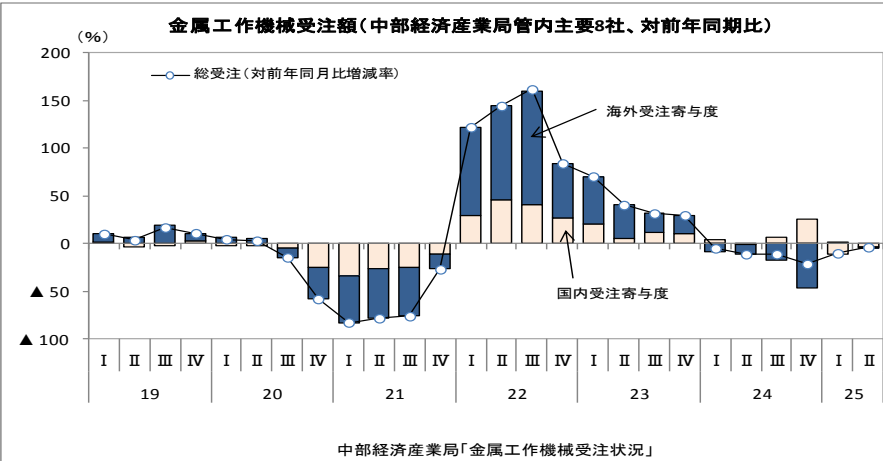
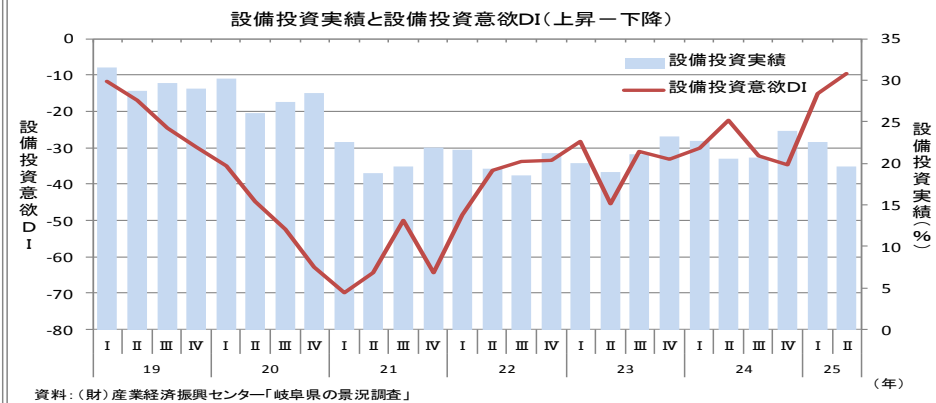
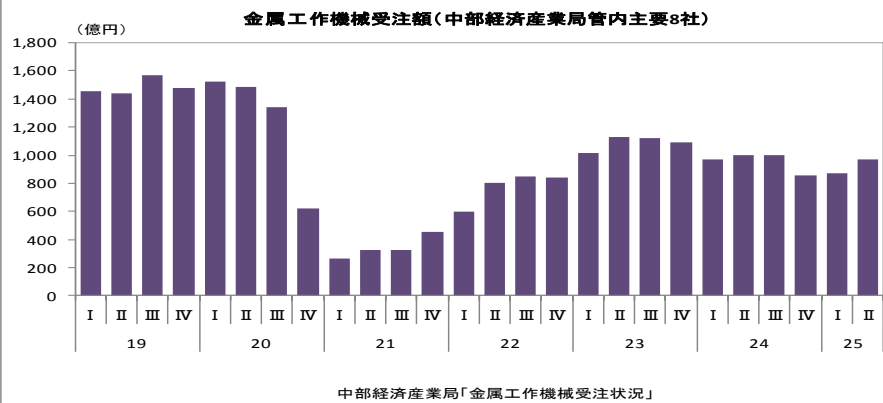
- ◆景気が上向きになっていると感じられる。(輸送用機械)
- ◆景気のそこは脱したが、回復基調にあるとは言い難い。アベノミクスの効果は実感できない。(生産用機械)
- ◆現時点では効果・影響は全く感じられない。(金属製品)
- ◆自動車向け製品の受注が増加しており、アベノミクスの影響が出てきていると感じられる。(プラスチック)
- ◆アベノミクス効果は感じられない。(アパレル)
- ◆実感はないが、前に比べると期待感を持っている。(刃物)
- ◆アベノミクスによる景気向上の実感はない。(木工)
- ◆アベノミクスによる景気回復の実感はない。(大型小売店)
- ◆アベノミクスの影響を感じるほどではないが、アウトドア関連などで一部の高級品がよく売れている。(スポーツ用品)
- ◆景気の上向き感や株高が、管内の中小企業者にまで下りてきている実感はない。(金融機関)



設備投資

- 生産用機械の受注額は、国内受注が減少したことで、6期連続のマイナスとなった。
- 設備投資意欲DIは、改善傾向。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が増加し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が減少した。



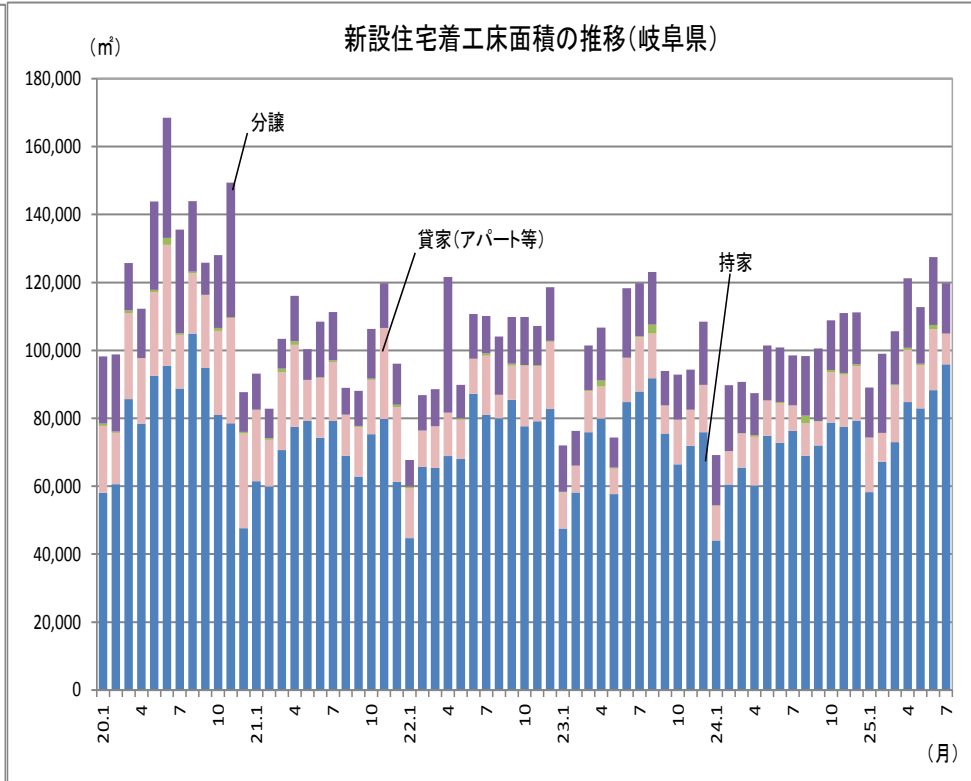
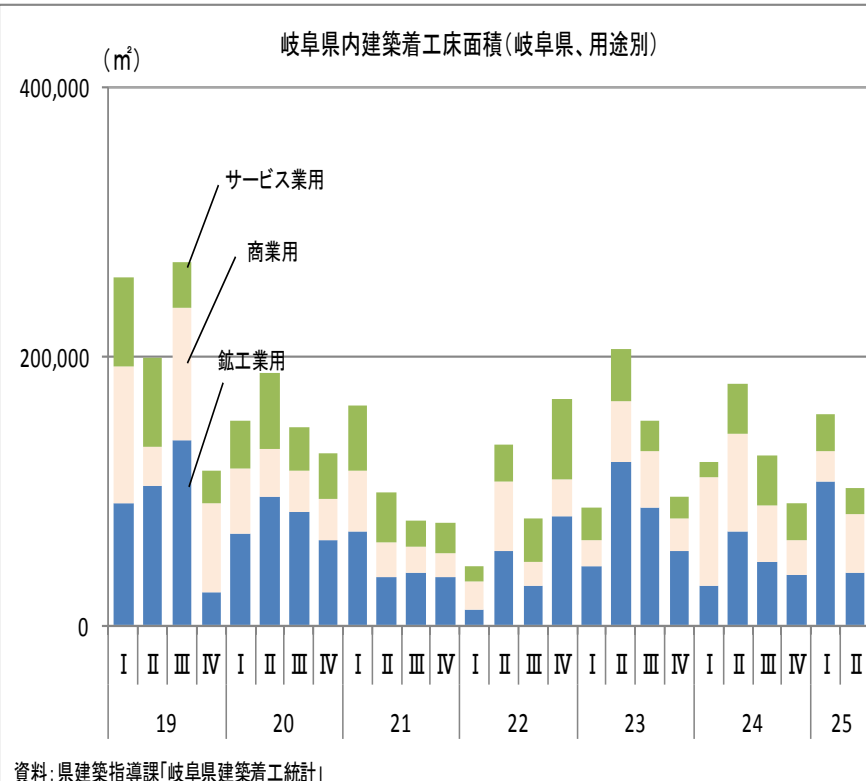
現場の動き

- ◆新たな受注に対応するため、現工場隣地に新工場を建設中である。設備投資は最近は行って来なかったが、生産設備も老朽化しそろそろとは考えている。(生産用機械)
- ◆設備投資を今年の10月、12月に数千万円規模で計画している。(はん用機械)
- ◆輸出製品の製造設備増強中。(その他の製造業)

住宅・建築投資

○25年4-6月期の建築着工は、全ての用途で減少したことにより、全体では前年同期比43.4%の減となった。

○7月の住宅着工は、持家など全ての区分で増加したことにより、全体では前年同月比21.5%の増と11カ月連続の増加となった。

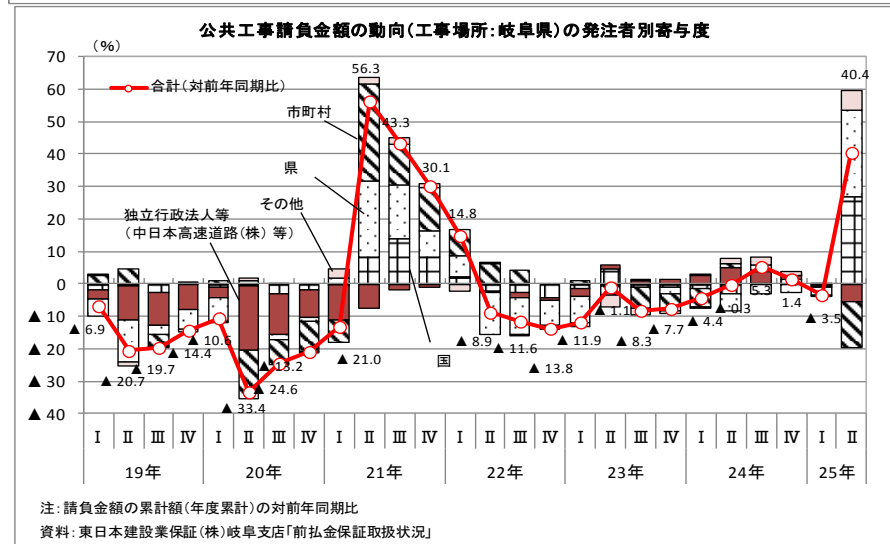
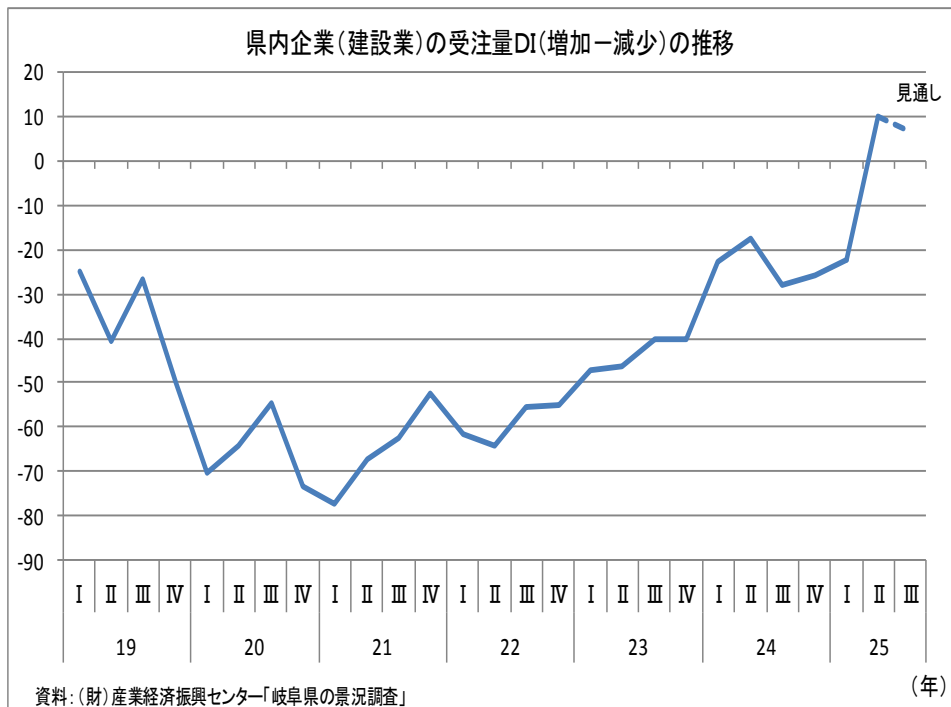
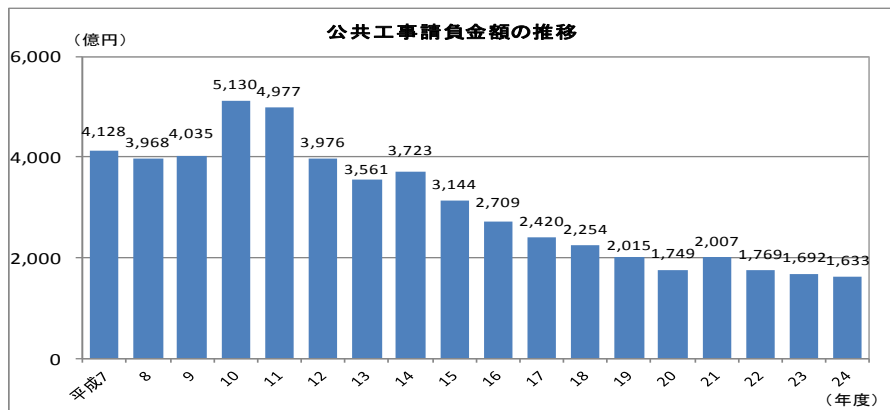


現場の動き

- ◆木材利用ポイント制度が始まったことや、消費税増税前の駆け込み契約で大手住宅メーカーは受注が増えているはずだが、影響は感じられない。プレカットについては受注量が多く、残業で対応している。(木材市場)
- ◆売上は全体的に上向き傾向(ドア製品の需要が増加)。昨年同期より2割程度UP。
- ◆製品の動きは良くなっているが、製品価格は据え置かれているのがつらい。(以上、製材所)
- ◆原木の流通量は、工場の夏期休業の影響で前月と比べると減少している。6月下旬から県内のカラマツ材の生産量は増加傾向にある。(森林組合)

公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。
 ○25年4-6月期の公共工事請負金額は、国及び県からの発注が大幅に増加したため、対前年同期比40.4%増と2期ぶりに前年同期の水準を上回った。



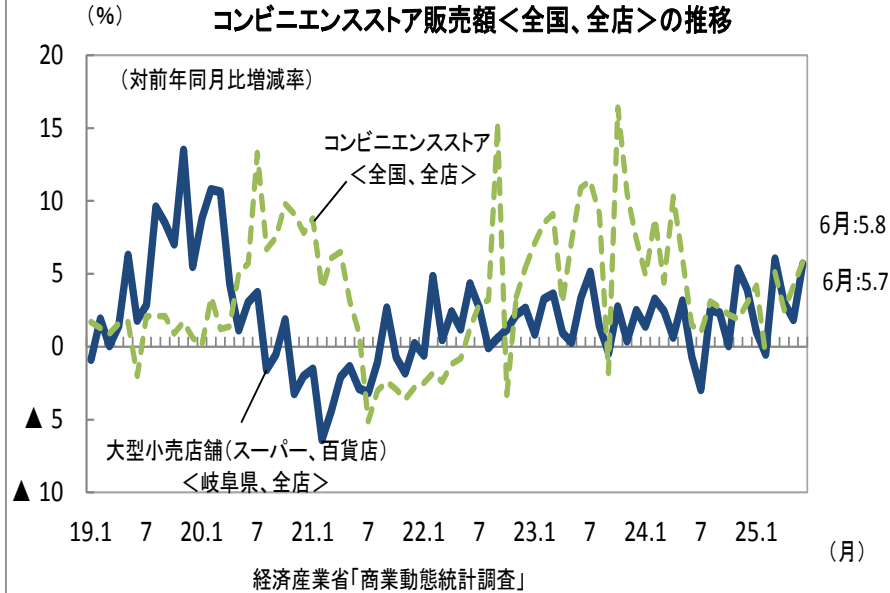
現場の動き

◆各社ともある程度手持ちの仕事は持っているが、仕事量は多くない。下期に受注・工事が集中することが予想され、労務費や資材費の高騰の懸念はあるが、業界の雰囲気は明るい。(業界団体)

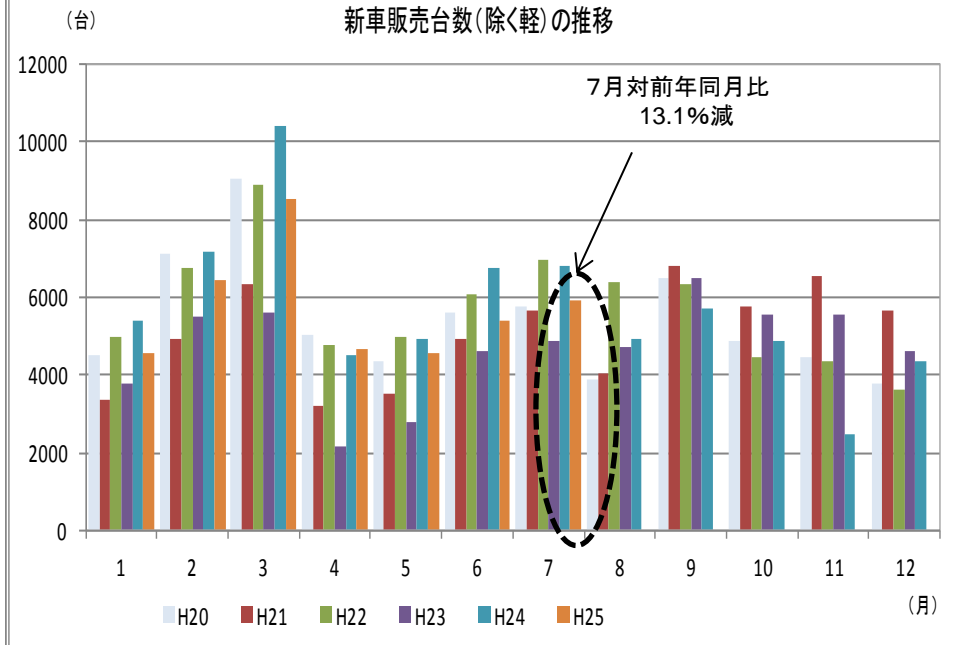
個人消費(流通・小売)

○6月の大型小売店販売額は、対前年同月比5.7%増と4カ月連続の増加となった。
 ○7月の自動車販売は前年同期比13.1%減と3カ月連続の減少となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び
 コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除軽)の推移



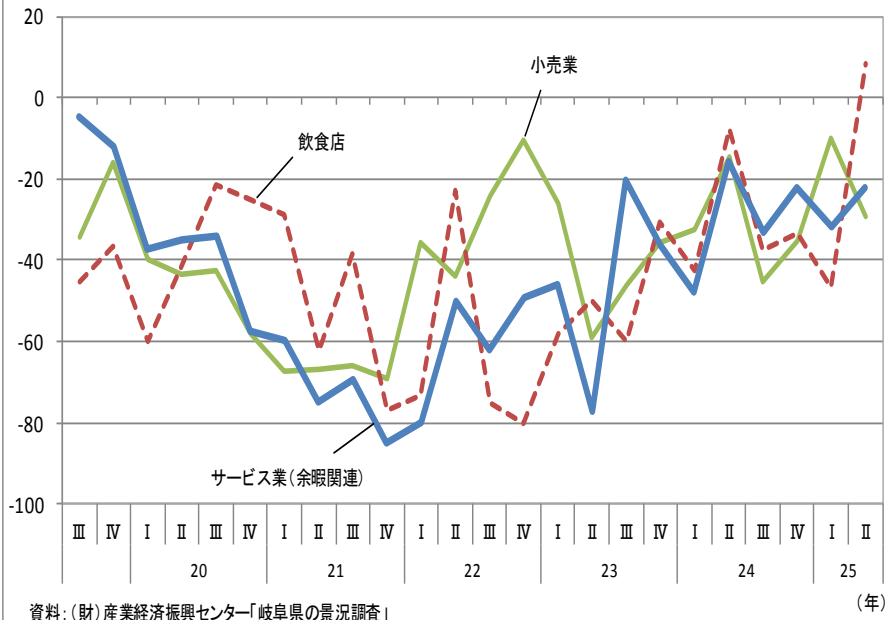
現場の動き

- ◆衣料品は夏物クリアランス商品を中心に堅調な動きであり、食料品は引き続き順調であった。お盆の手土産やギフト関連品がよく売れた。(大型小売店)
- ◆暑い日が続いたことから、アウトドア関連や海関連の商品が特によく動いた。トレッキングが引き続き好調。対前年同月比で3~4割の伸びを示している。(スポーツ用品)
- ◆8月の売り上げは、前年同月を少し上回る状況。暑さが続いた影響もあり、エアコンの売り上げが昨年より1~2割の増加。また、冷蔵庫も好調で、1~2割の伸び。(家電)
- ◆昨年は国体関係の行事や国体記念商品等の売れ行きがよかったので、今年はその分落ちてきている。個別の商品ではアイスクリームやおでんが好調。おでんは昨年よりも出足がよい。(コンビニ)

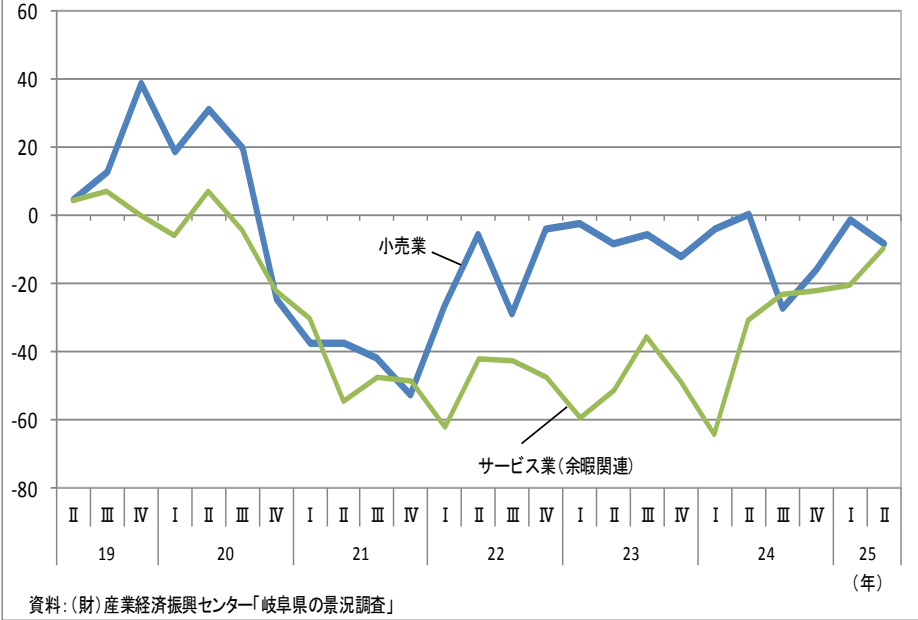
個人消費(流通・小売)－2

○平成25年第Ⅱ四半期の小売業については、売上高、販売額ともに横ばい傾向。サービス業については売上高、販売額ともに増加傾向。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



現場の動き

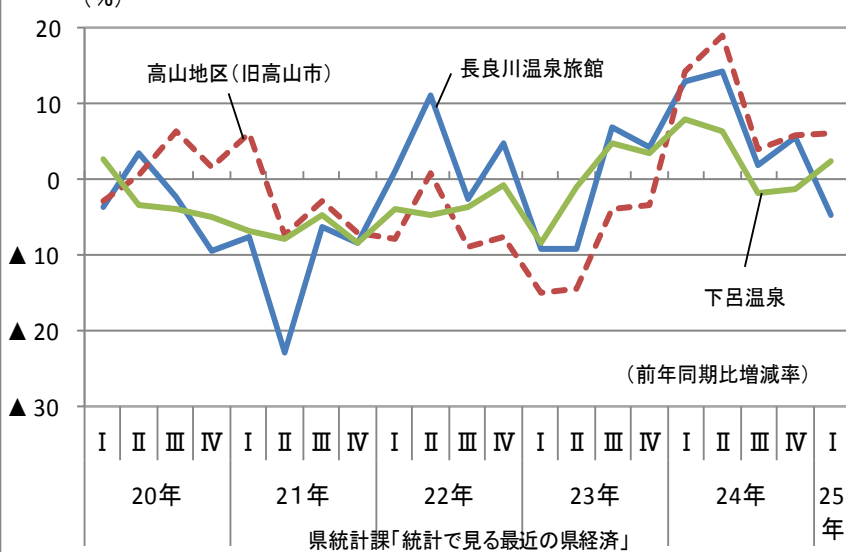
- ◆8月の元気ハツラツ市は暑さのためか、7月に続き人出がいつもより少なかった。(大垣市商店街)
- ◆お化け屋敷のおかげで、平日の日中も、中高生・家族連れが多く来てくれた。8月は催し物が多かったので、多くの人で賑わった。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆8月は夏休みで観光客が非常に多かった。外国人観光客も多い。夏祭りがあり、商店街も賑わっている。(高山市商店街)
- ◆前年同月比で110%。イベントでかなりのお客があった。
- ◆8月は暑すぎて、来店していただけるお客様が少なかった。(以上、多治見市商店街)
- ◆売上、客数ともに前年同月より増。ランチ・ディナーとも家族連れのお客様が多く見受けられた。
- ◆既存店舗において売上、客数ともに前年同月より若干減。(以上、アクティブG)

観光

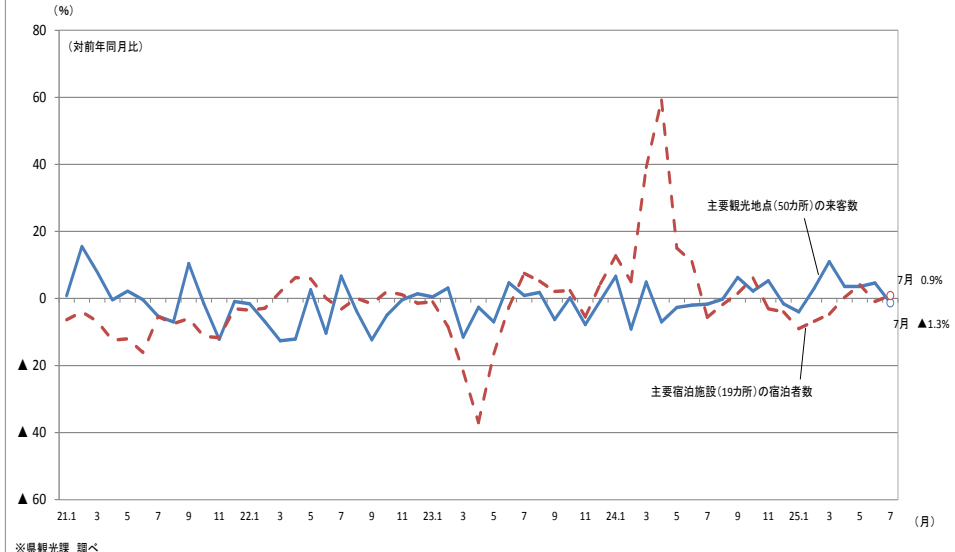
○平成25年第I四半期の宿泊客数は、高山地区(旧高山市)が前年同月比6.2%、下呂温泉が2.5%増加したが、長良川温泉旅館が4.7%減少した。

○主要観光地における7月の観光客数は、前年同月比1.3%減と6ヶ月ぶりに前年を下回った。一方、主要宿泊施設における宿泊者数は同0.9%増と2ヶ月ぶりに前年を上回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



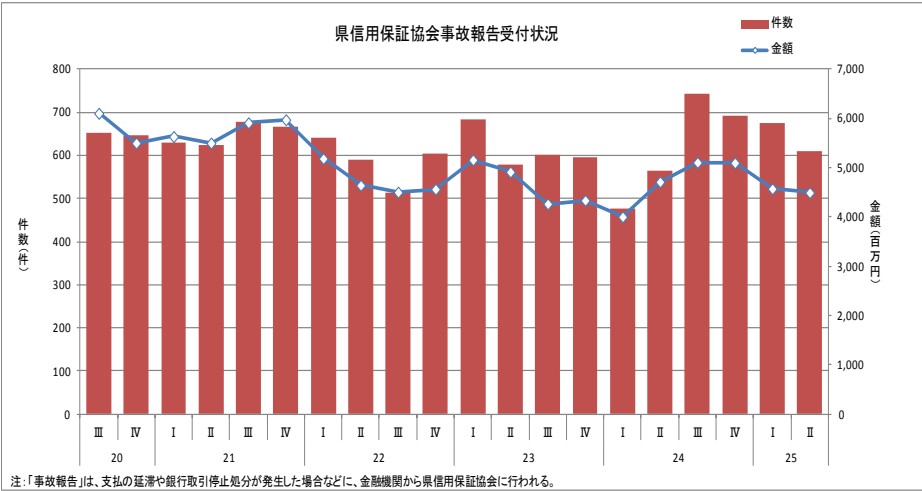
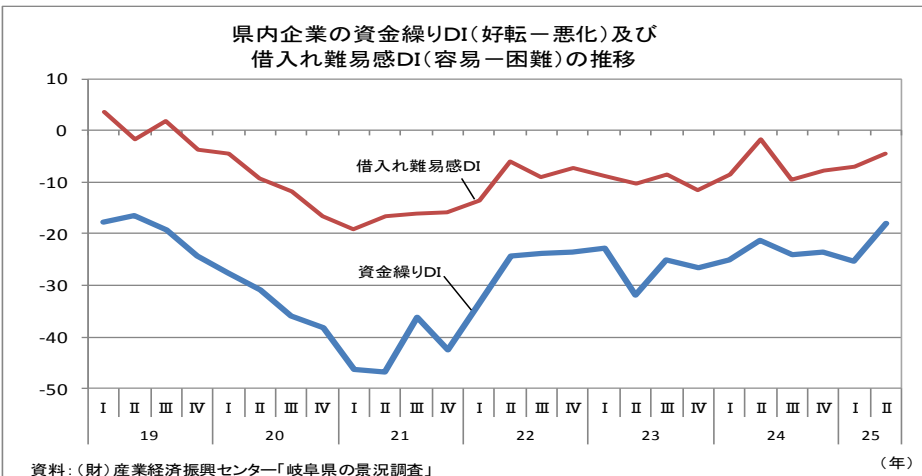
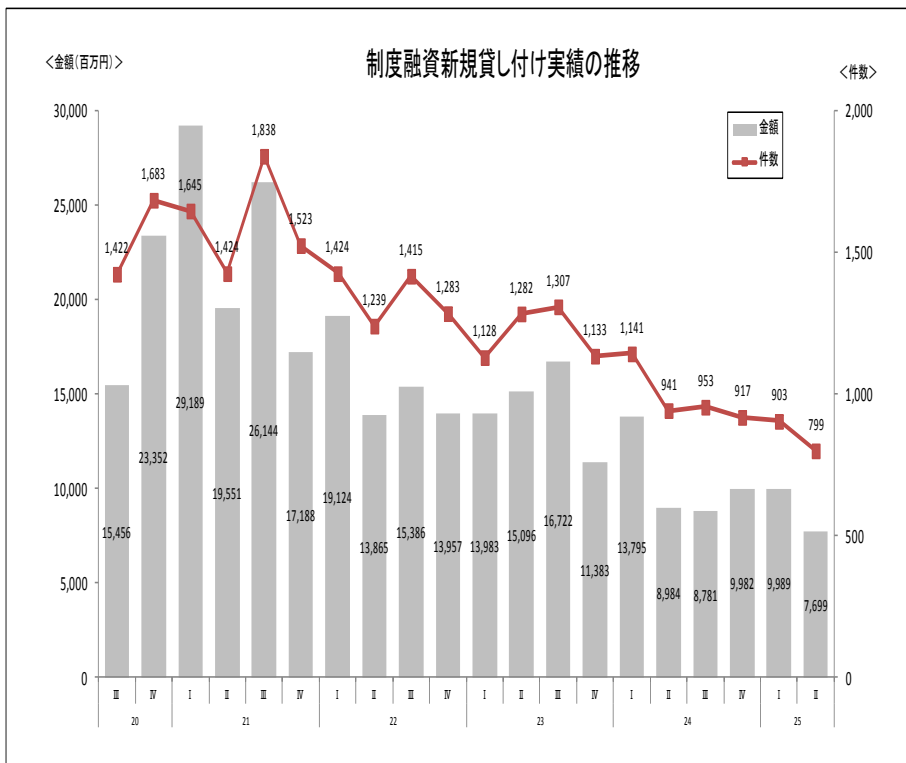
現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、総じて前年並みの水準を概ね確保できている模様。インバウンドは引き続き台湾やアセアンなどアジアの幅広い国・地域で好調な動きが見られる。(宿泊施設の総括)
- ◆全国中学校体育大会に伴う宿泊が底上げしたことに加え、個人客も増え、前年を5%程度上回った。
- ◆お盆期間はほぼ個人客が中心だったが、それ以外は鶉飼を兼ねた団体ツアーも入っている。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆8月は団体、個人ともに前年並みを確保。インターネット予約は前年を3%程度上回っている。(高山市内の宿泊施設)
- ◆例年同様、学生のスポーツ団体が宿泊。インターネット予約も増えつつある。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆8月は毎年個人客中心だが、今年は家族連れが例年になく多め。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆台湾や中国からの宿泊客が大幅に増え、前年の2~3倍の水準に達した。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆台湾・韓国は前年をやや下回っているが、好調なインドネシアなど東南アジアや香港がカバー。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いている。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

<新規融資実績>

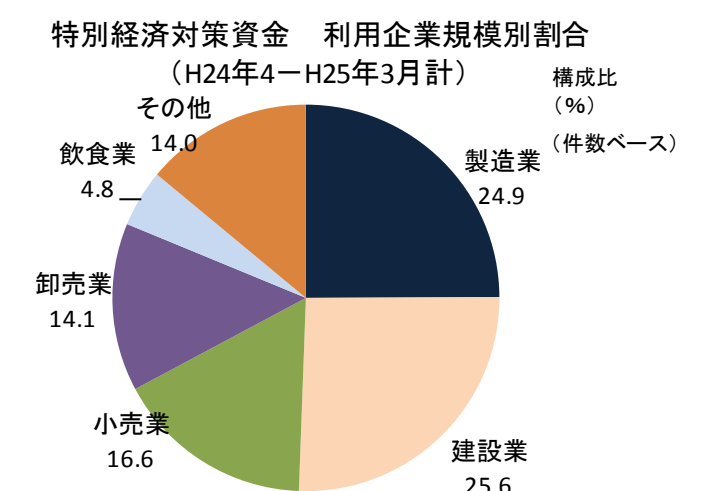
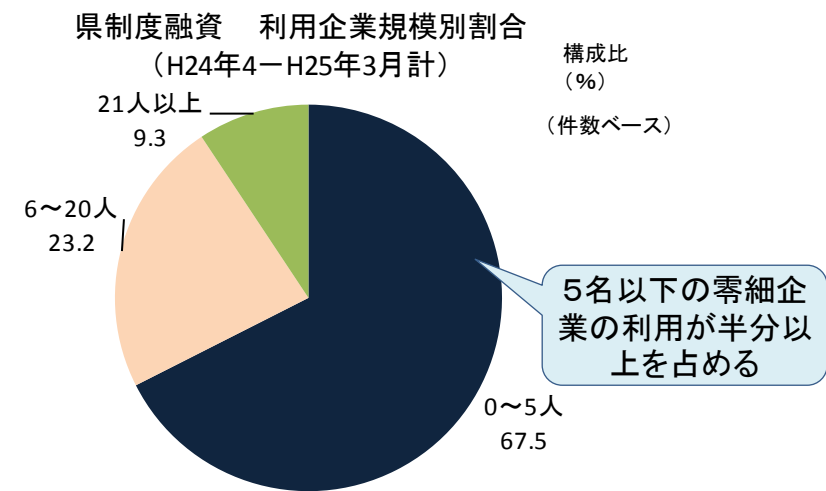
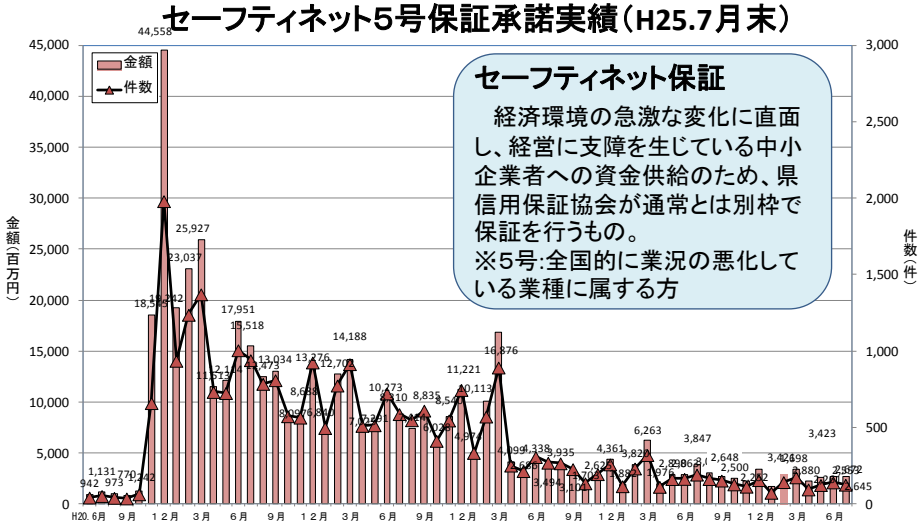
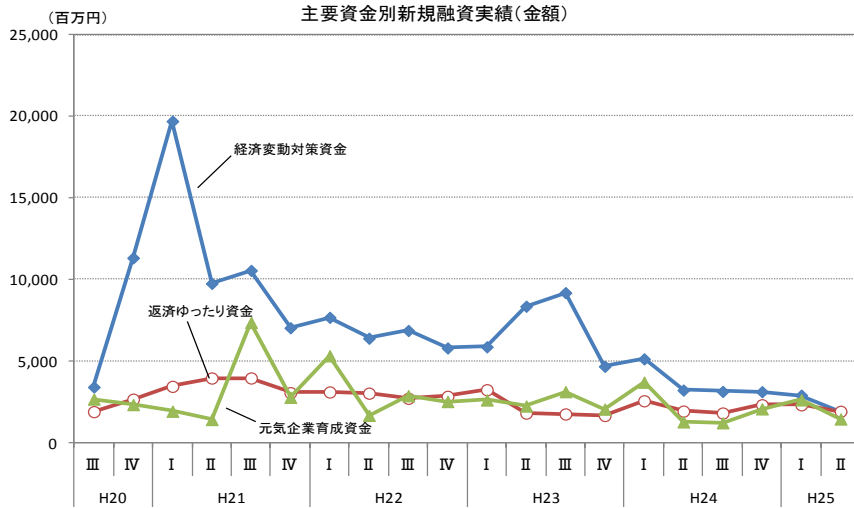


現場の動き

- ◆融資の数値として増えていない。横ばい、もしくは少し下向きかというくらい。
- ◆融資動向はこれまでどおりで、状況は変わっていない。設備は低調。金融円滑化法終了後の条件変更の件数もこれといった変化なし。
- ◆融資動向は低調で変わっていない。設備資金に結びついている実感はない。(以上、金融機関)

資金繰りー2

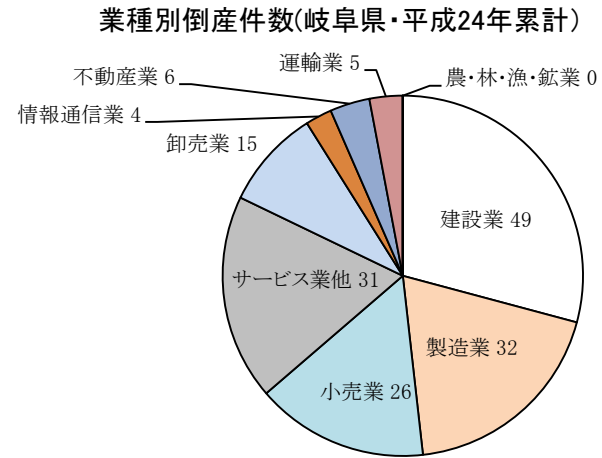
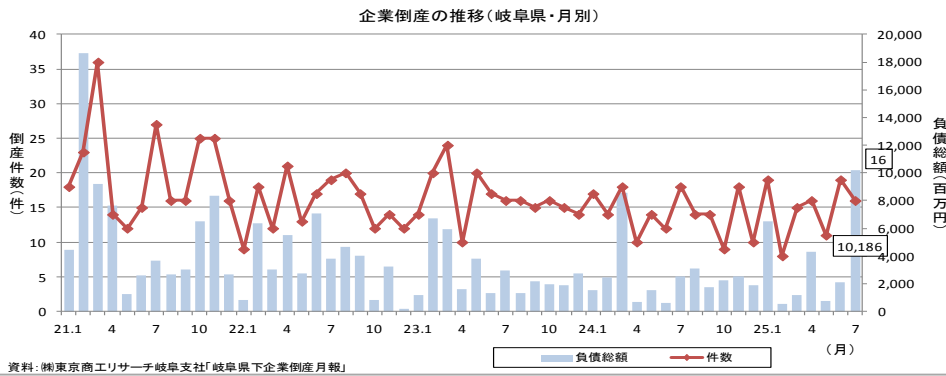
- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。



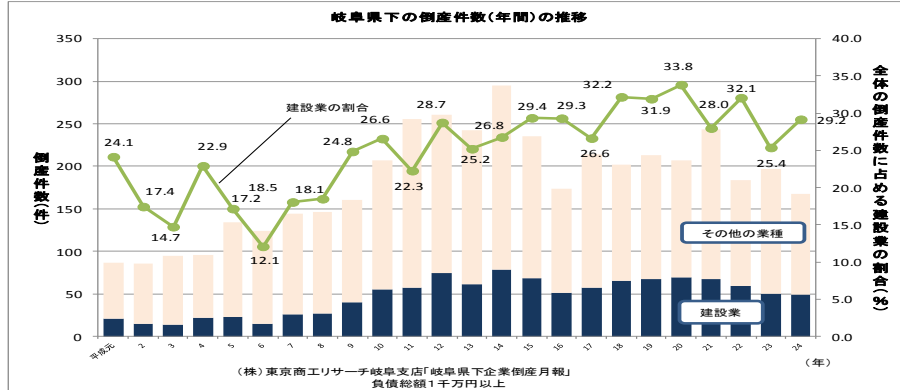
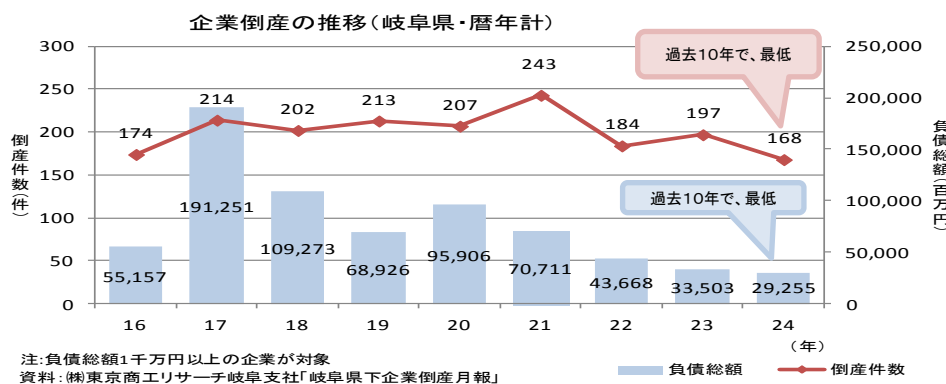
倒産

- 平成25年7月の倒産件数は前年同月から2件減少の16件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



東京商工リサーチ「岐阜県下企業倒産月報」
負債総額1千万円以上



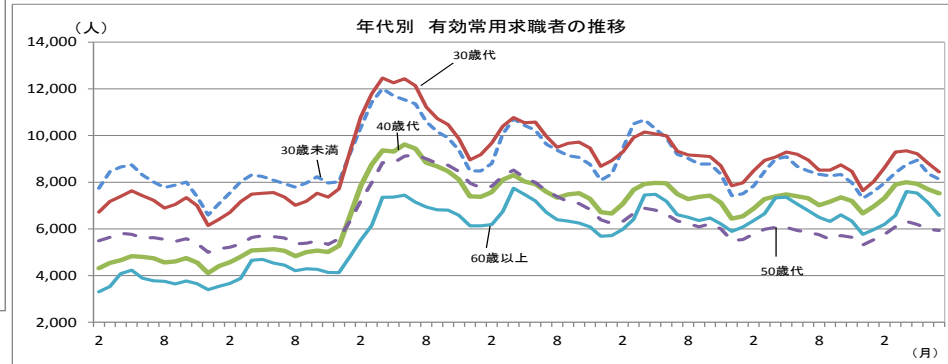
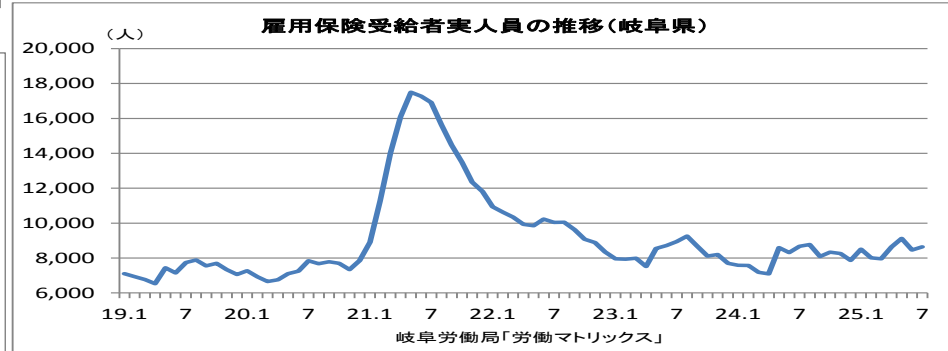
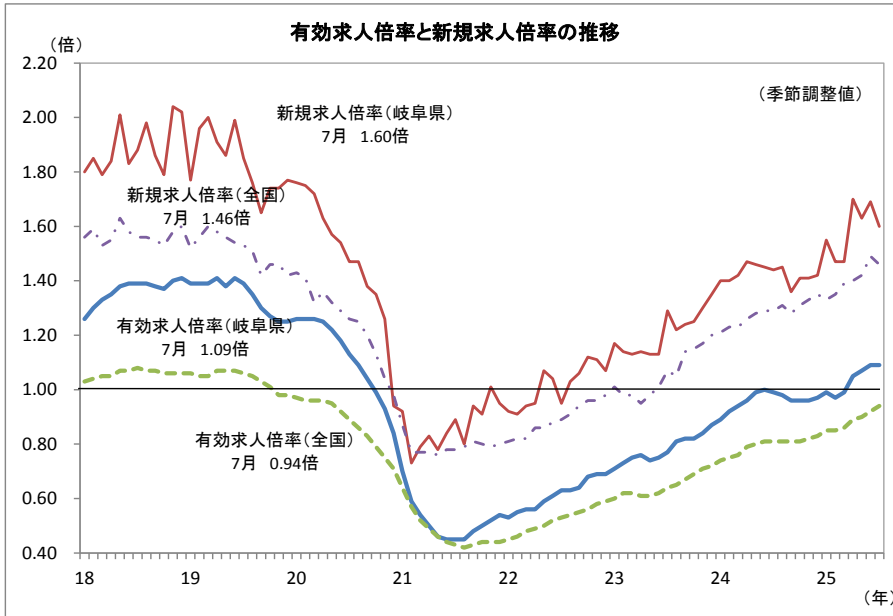
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆7月の県内倒産件数は16件、負債総額は101億8600万円となった。そのうち、負債総額が10億円を超える大型倒産が1件発生したことで、全体の負債総額を押し上げる要因となった。
- ◆金融円滑化法終了後も監督官庁の指導による精神を受け継いで倒産の急増は避けられ一進一退をたどっているが、業種業態によっては温度差が生じている可能性があり、今後金融機関の貸出姿勢の変化によっては増勢に転じる可能性は否めない。

雇用

○7月の有効求人倍率は1.09倍と前月と同値。また、新規求人倍率は1.60倍と前月より0.09ポイント低下。

○7月の雇用保険受給者人員は8,638人と前年同月と比べて0.4%減少した。

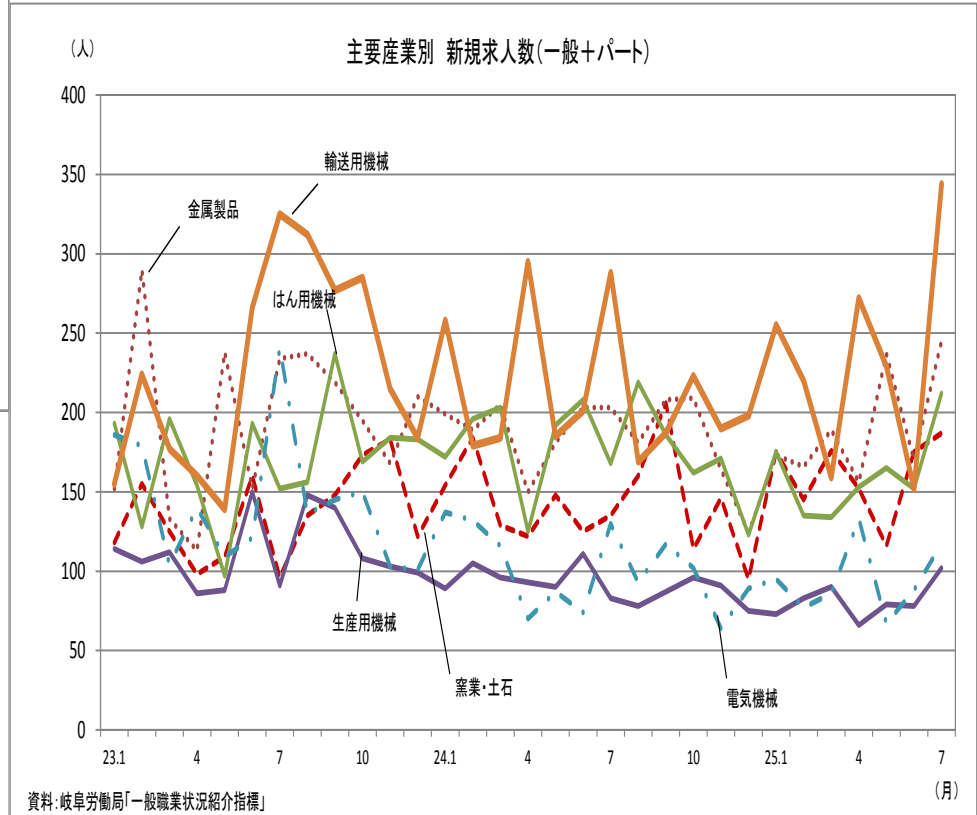
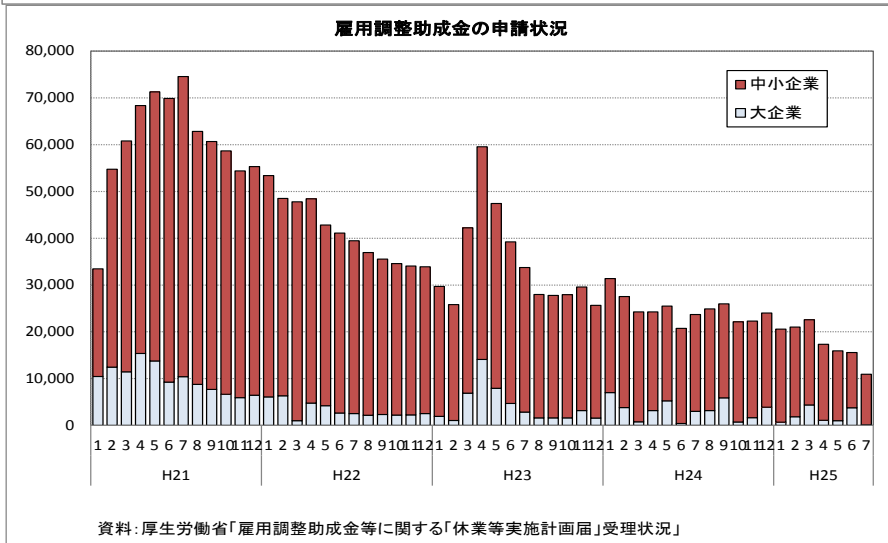
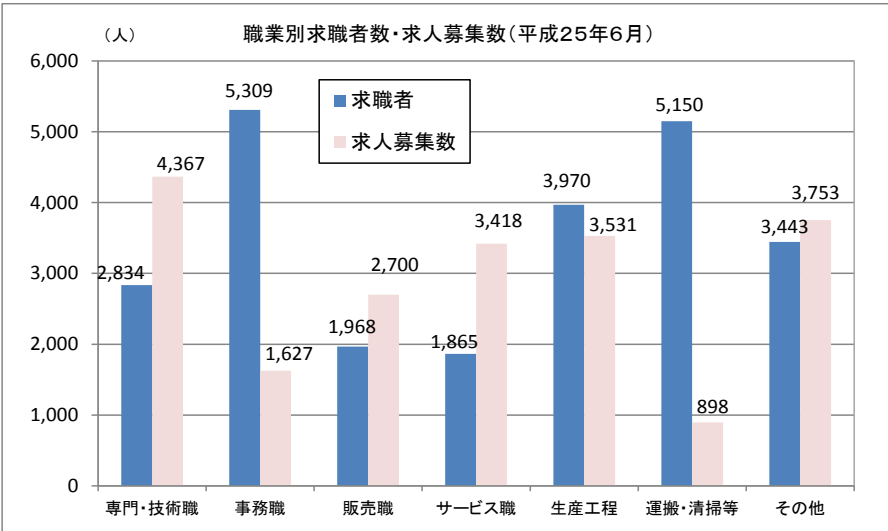


現場の動き

- ◆ 正社員3名、パート等6名を9月採用予定。人材派遣の採用を再開。
- ◆ 出荷量が増加したことにより業務量が増えており、残業等により対応している。7月に中途採用で期間事務員1名を採用した。さらに1名を募集しているが、必要な人材が集まらない。(以上、輸送用機械)
- ◆ 派遣社員を数名増員した。(非鉄金属)
- ◆ 7月からソニーイーエムシーエス美濃加茂の退職者3名を採用した。さらに中途採用の募集を行っているが、なかなか技術系の即戦力となる人材が集まらない。(金属製品)
- ◆ 受注の増加に対応するため派遣社員を3名増員したが、今後も増員を予定している。
- ◆ 出荷量が増加したことにより業務量が増えており、残業等により対応している。(以上プラスチック)

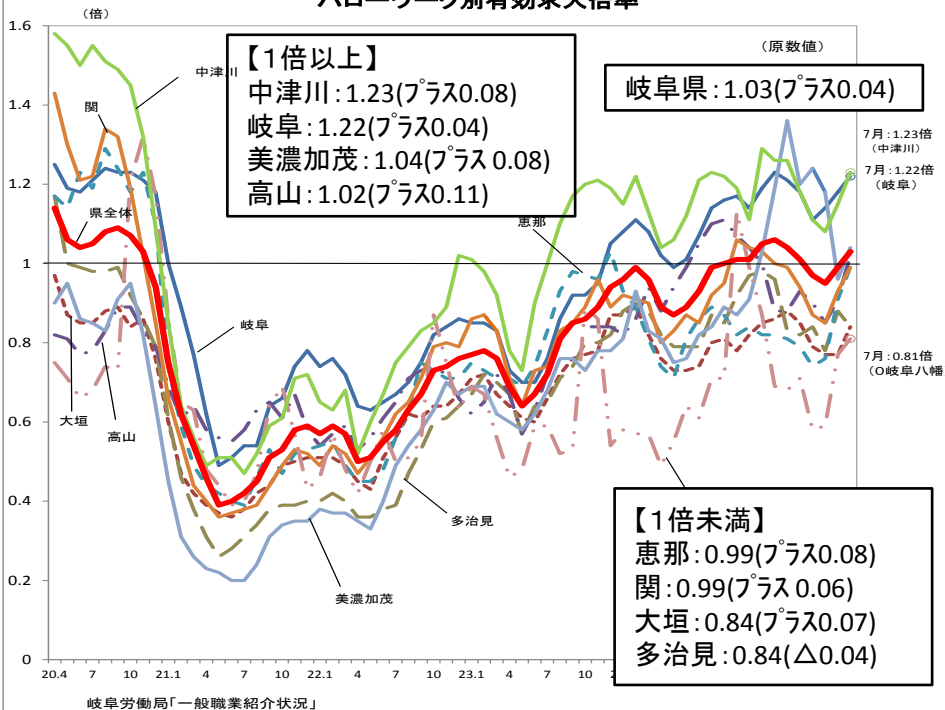
雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は、輸送用機械をはじめ、すべての産業で増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したものの、このところはやや減少傾向。



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。
- ◆来所者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

○従業者数

平成24年10月末:2,160人(外国人835人)

平成25年3月末: 0人

○ハローワーク窓口の状況(8月25日現在)

求職者数 560人(うち 外国人216人)

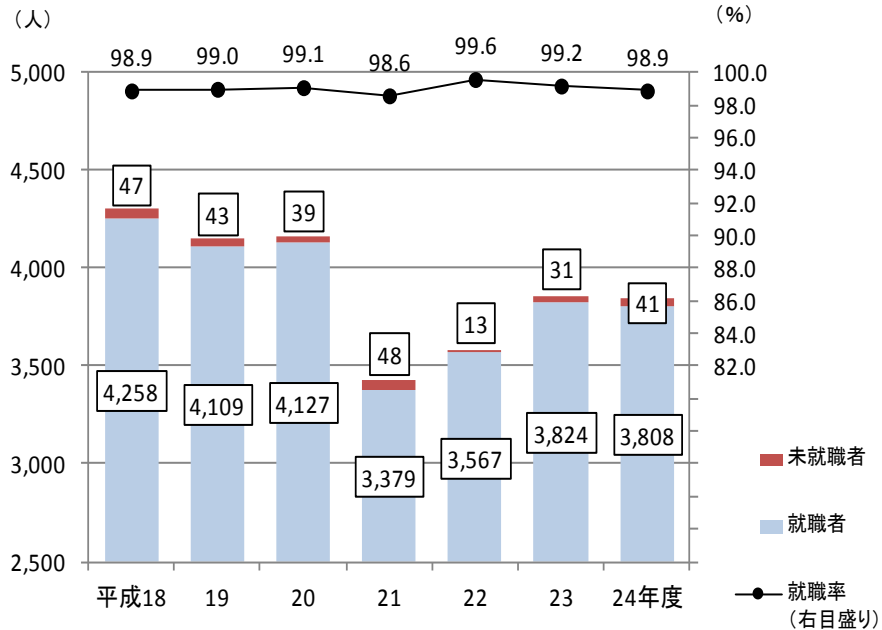
<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

雇 用(高校新卒者の就職)

○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

現場の動き(求人状況)

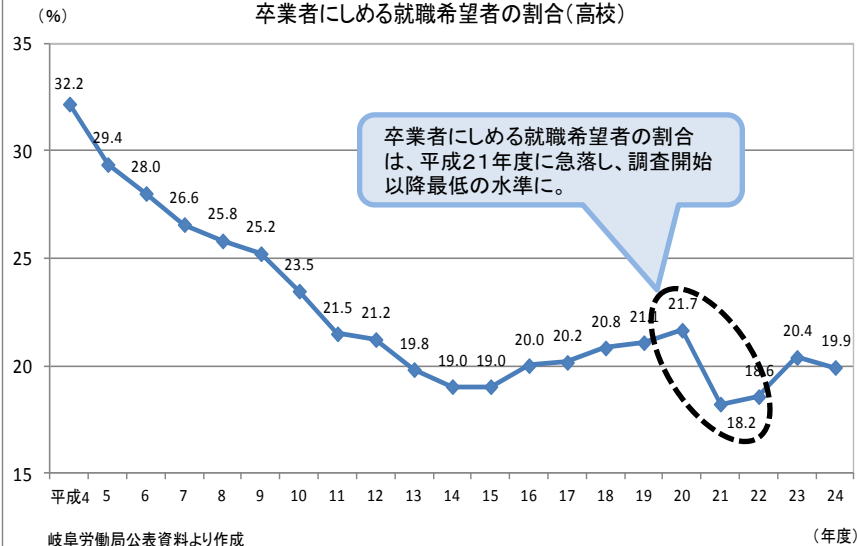
<ハローワーク岐阜、大垣、高山、関、美濃加茂、中津川>

◆高校卒業予定者の求人が増加。

<ハローワーク多治見、恵那>

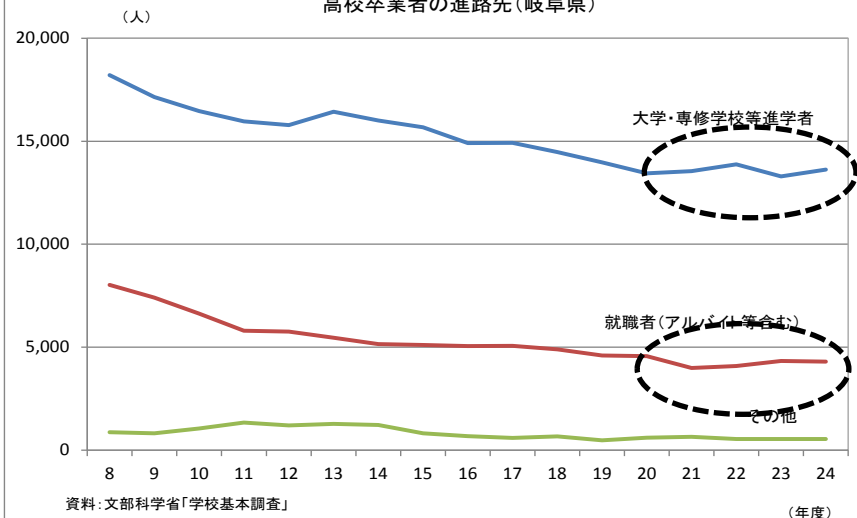
◆高校卒業予定者の求人が減少。

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



岐阜労働局公表資料より作成

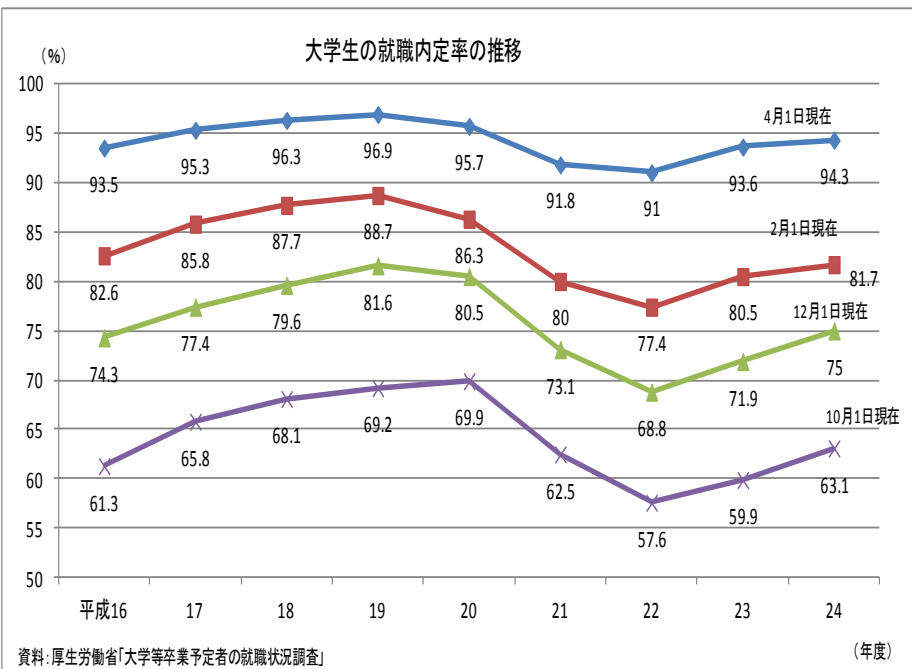
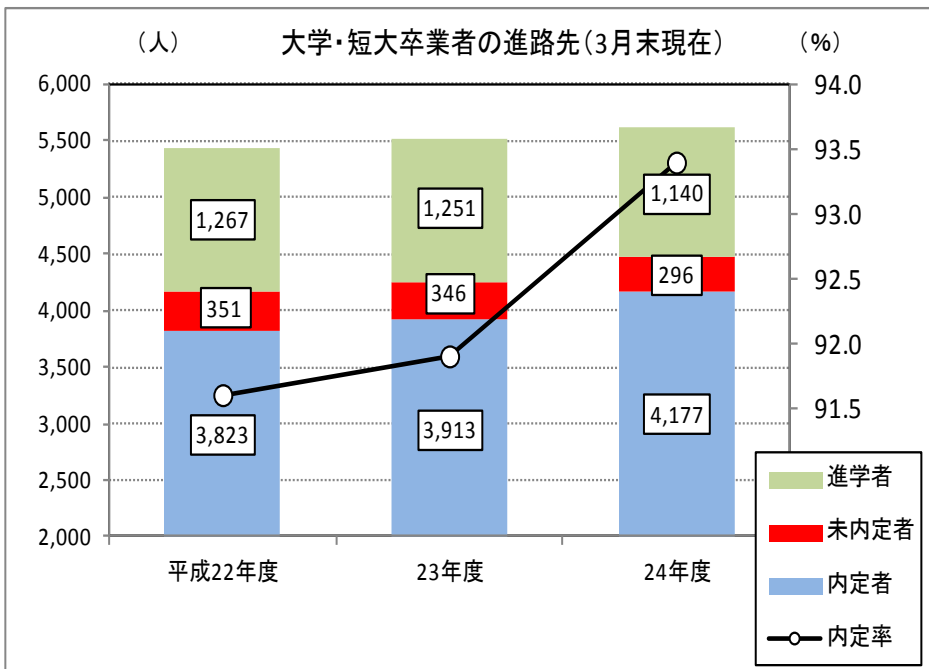
高校卒業者の進路先(岐阜県)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 平成24年度の卒業者については、前年度より内定率が改善。



現場の動き

【岐阜県内の主な大学】

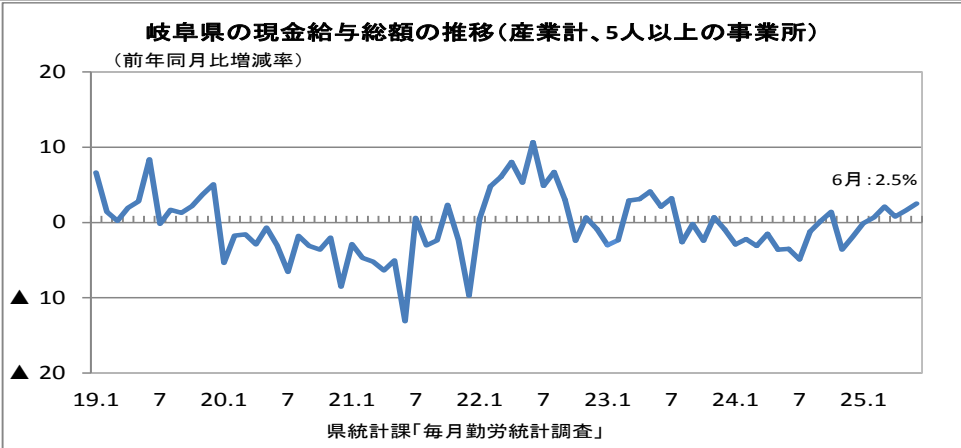
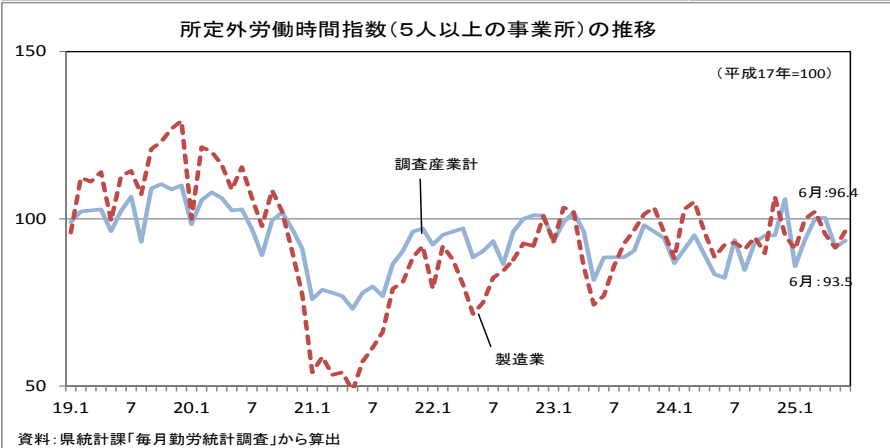
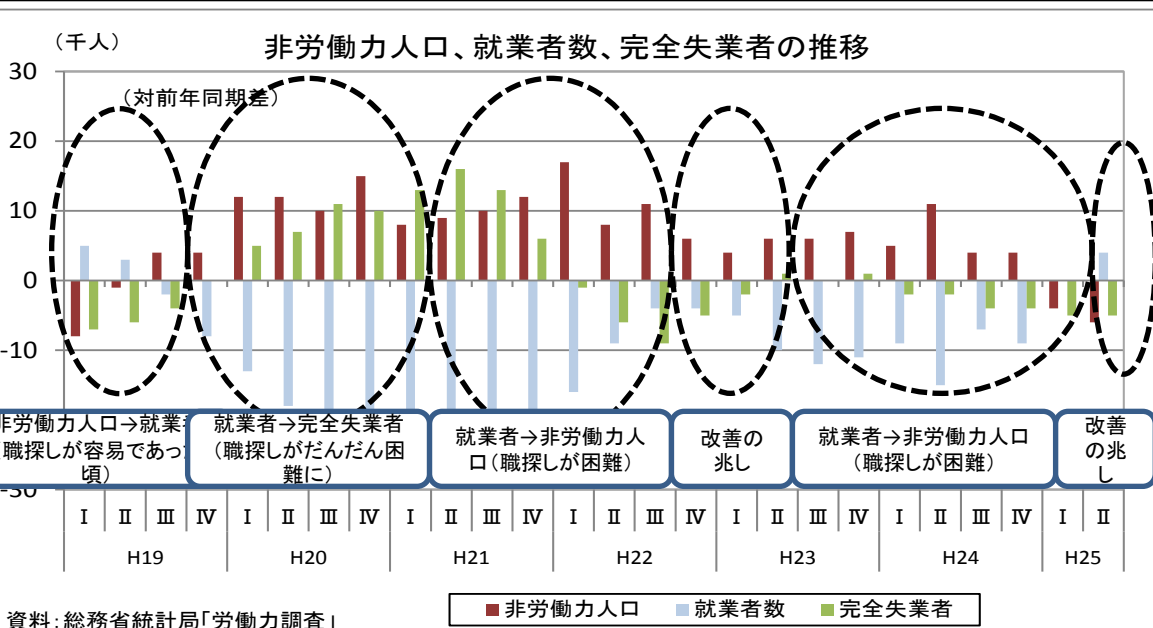
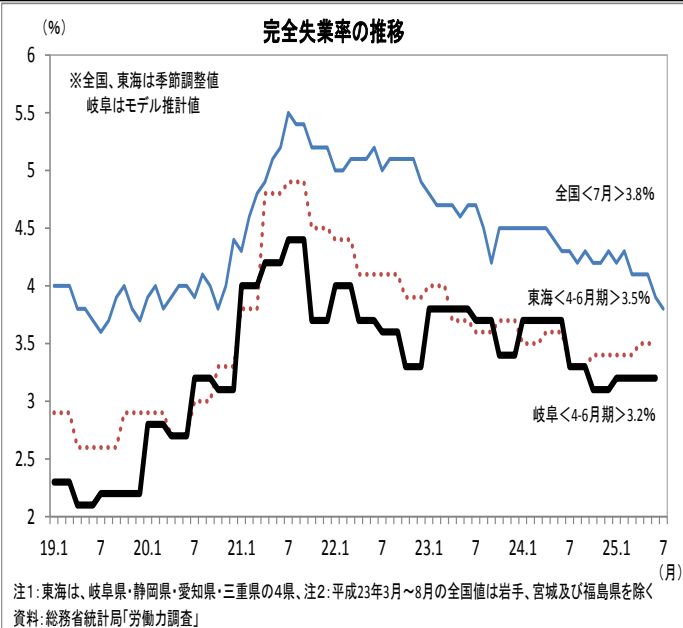
- ・2014年卒の内定率は学部生で45%程の状況(学生の報告ベース)と思われる。
- ・2014年卒の内定状況として30%程の状況(学生の報告ベース)。
- ・2014年卒の内定状況として38%で、昨年度より5%程アップ。4月より昨年比5%程アップを維持し続けている。

【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の内定状況は月末の時点で50%、昨年度より10P程アップしている状況。
- ・2014年卒の内定状況として7月末の時点で50%弱の状況。
- ・2014年卒の内定状況は、7月末の時点で37%となり、昨年比3%程の下回っている状況。

雇 用(完全失業率)

- 平成25年第Ⅱ四半期の完全失業率は3.2%と前期比で横ばい。
- 平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。その後再び厳しい状況となったが、直近では改善する兆しがみられる。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業全体では、円安により原材料価格の上昇が生じているものの、輸送機械関連を中心に受注や生産が増加しており収益が改善している。
生産用機械においては、引き合い及び国内企業からの受注が増加している。
- 直近の円安の動きについては、輸出が増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工等で明るい声が聞こえたが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売については、大型店では衣料品は夏物を中心に堅調な動きであり、食料品は引き続き順調であった。8月はお盆の手土産やお中元などのギフト関連品が好調であった。商店街においてはイベントの実施により多くの人出で賑わった。
- 観光は、総じて前年並みの水準を概ね確保している模様。インバウンドは台湾やアセアンなどアジアで引き続き好調な動きが見られる。
- 雇用面では、生産量の増加により業務量が増えたため雇用を増やす企業が出始めている。雇用にあたっては専門職や即戦力の人材を求めているが、採用に苦慮している企業が多い。
- 企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。